20. 柴田氏甘棠館屋敷跡（しばたしかんとうかんやしきあと）

所　在　地：敦賀市市野々
調査原因：史跡整備
調査期間：平成27年11月4日～平成28年3月31日
調査主体：敦賀市教育委員会
調査面積：約 620 ㎡
時　　代：江戸～現代

位置図（S＝1/50,000）

調査の概要　柴田氏甘棠館屋敷跡は、平成 3 年度に母屋基礎部分の確認調査を行い、その後、国指定名勝柴田氏庭園の整備計画策定のため、平成 23 年度から屋敷地内の発掘調査を行ってきました。その過程で屋敷地割りや、その変遷について検討を行い、平成 27 年度から庭園および建物の修復整備を開始しました。

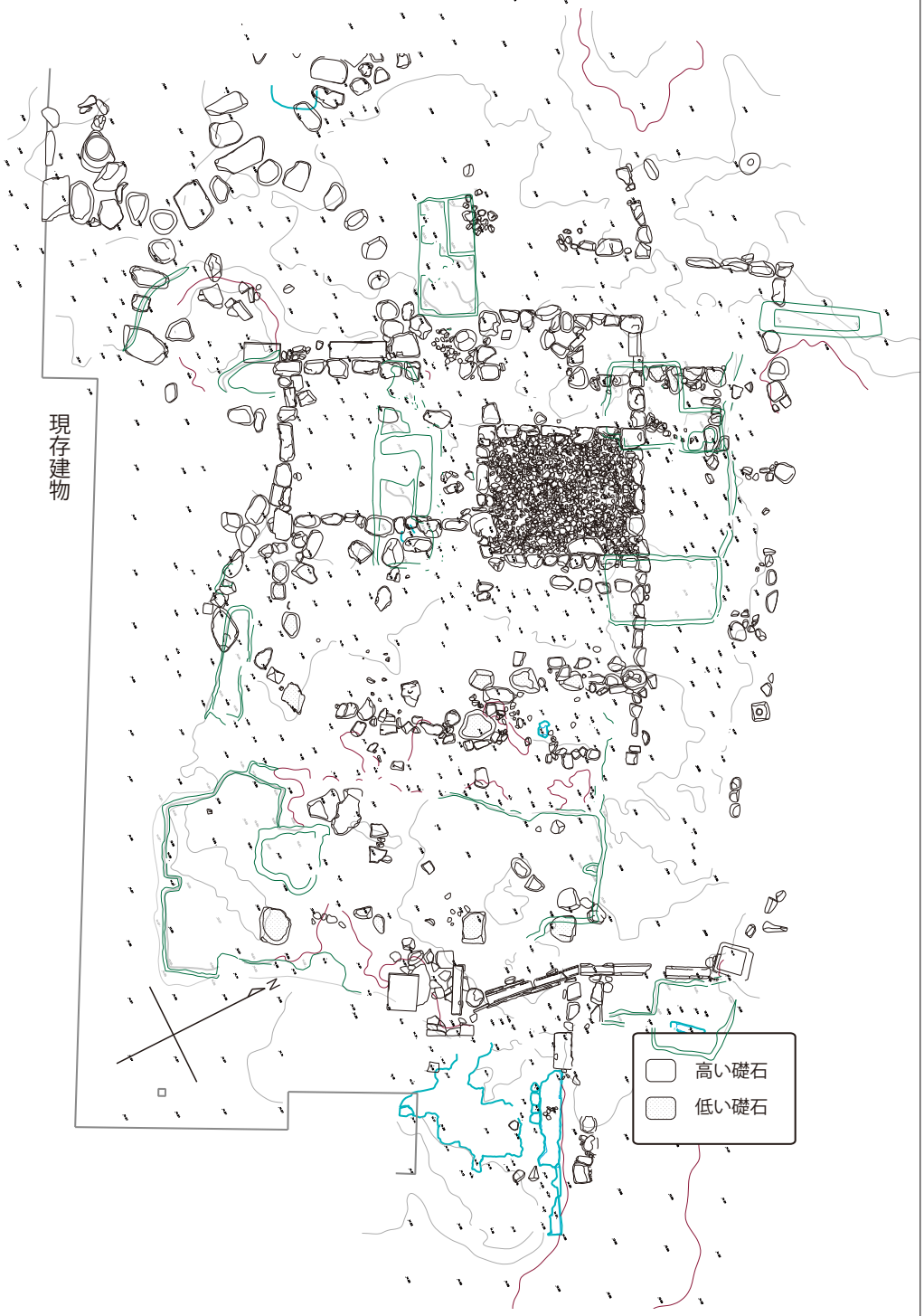
遺構

盛土遺構　今回の調査は、母屋部分の礎石まわりの清掃と、庭周辺の構造物確認を目的としました。このうち母屋周辺においては、平成 3 年度調査部分の確認を行いましたが、その時に指摘されていた、現在の建物と異なる向きに建てられているような下層遺構は確認できず、一部礎石の積み直し痕跡にとどまることが判明しました。以前裁割されたトレンチ部分の清掃からは、現在の母屋の礎石の基礎としておおむね 60ｃｍほどの盛土が一度に築かれたことが判明しており、当初の建物を全面的に建て替えたのではなく、改修により一部の礎石の高さが底上げされていたことから、礎石の高さに高低ができたと推測されました。

建物と庭園の間については、清掃および一部裁割トレンチによる確認調査を行いました。その結果、母屋付近と同様に建物側の地盤を底上げした盛土を確認しましたが、排水溝などの構造物はありませんでした。当初より建物側を高くすることで、雨水を周囲の周溝へ自然に排水していたのではないかと推測しています。

遺物　盛土内には染付片が少量含まれており、この造成が江戸時代に行われたものと推測されます。ただし、この工事が当初の江戸前期のものかどうかまでは判明しませんでした。

まとめ　調査の結果、屋敷成立当初の工事段階において、周囲に比べ大がかりな盛土を行っていたこと、それにより、建物附近から自然に雨水を排水していた可能性を指摘することができました。現状では土砂の流出や樹木の繁成により、建物周辺で雨水の排水が所々滞っており、建物の健全な維持に問題が出てきています。今後の整備においては、排水溝設備の新設など、さまざまな検討が求められます。

（中野　拓郎）

平成27年度　柴田氏甘棠館屋敷跡　母屋礎石平面図　1/100